



交換学生の手引き



ROTARY INTERNATIONAL



目次

交換留学への参加	3
交換の準備	7
交換留学中	12
カルチャーショック	15
交換留学後	17
ご家族と保護者の方へ	18

本手引きの目的は、学生にロータリー青少年交換プログラムの概要を説明し、交換の準備についてアドバイスすることです。また、交換の心構えや交換前後と交換中に注意すべき事柄も記載されています。詳しい情報は、交換前に派遣地区のロータリアンが開くオリエンテーションで説明されます。

交換留学への参加

交換に参加する理由

交換留学とは、大きな実りをもたらす体験です。

- 母国から派遣され、海外で親善使節を務める。
- 新しい生活に溶け込み、異文化を直接体験する。
- 留学国の人々だけでなく、ほかの国からの交換学生とも知り合いになり、生涯にわたる友情を築く。
- 外国の習慣や歴史について学ぶ。
- 世界観を広げ、自分自身と自国の文化について理解を深める。
- 経験から学んだことを生かして、リーダーシップを発揮できるようになる。
- 末永く心に残る思い出をつくる。



ロータリーとは

ロータリー・クラブとは、地域社会の人々の生活の質を高めるために活動し、あらゆる職業における高い道徳的水準を奨励し、親善や平和を築くために助力している奉仕組織です。世界には、33,000以上のロータリー・クラブがあります。「ロータリアン」と呼ばれるクラブ会員は、事業、専門職務、地域社会のリーダーであり、時間や能力を捧げて奉仕活動に当たっています。その奉仕活動の1つが、ロータリー青少年交換です。

「地区」とは、管理上の目的でロータリー・クラブを一群にまとめた単位を指します。広い地域で交換を行うために、複数の地区が集まり、「多地区合同」として交換を行っている場合もあります。

国際ロータリー (RI) は、全世界のロータリー・クラブの連合体です。青少年交換の実施をクラブと地区に奨励し、出版物を発行したり、各ロータリー地区のサポートを行っています。地区は、RIから独立して青少年交換プログラムを運営しますが、学生の安全と福利のために、決められた方針を守らなければなりません。

参加条件

青少年交換への参加にふさわしい人は、若く、好奇心旺盛で、リーダーシップの資質があり、母国やロータリー・クラブと地区を代表して優れた文化親善使節を務められる人です。申請者は、参加を申請する前に、ロータリーと関係している必要はありません。ロータリアンの子供も参加することができますが、優先して選ばれることはありません。身体に障害のある学生にも申請が奨励されています。

交換の種類

青少年交換には次の3種類があります。

- **長期交換**：この交換は、年齢15～19歳の学生が参加する、通常10～12カ月間の滞在です。実際には、この交換留学に参加する学生の多くは16～18歳です。留学中には2つ以上のホストファミリーの家に滞在して、学校に通学しなければなりません。長期交換は、学年度の直前と直後の休暇期間の一部またはすべてを含めて、滞在期間を延長することができます。
- **短期交換**：この交換は、年齢15～19歳の学生が参加する、通常数日間から数週間の滞在です。学校の休業中に行われることが多く、通常、学校への通学はありません。短期交換は、ロータリー地区が運営する交換プログラムとして、2つの家庭の間で学生を派遣し合うのが一般的ですが、各国から学生を集めて国際青少年キャンプやツアーを行うこともあります。
- **新世代交換**：これは、18歳から25歳までの若者を対象に、3週間から3カ月までの滞在进行短期の特別交換プログラムです。このプログラムには、職業研修に似た内容が含まれる場合があります。

各地区が、どの種類の交換を実施するかを決定します。青少年交換プログラムは、地区ごとに独自に運営されているため、年齢制限は地区によって異なります。詳細は、地元のロータリアンにお問い合わせください。

ウェブサイト (www.rotary.org) の「クラブ所在地検索」を使って最寄りのロータリー・クラブを検索することができます。



申請時期と申請方法

申請の時期や方法は地区によって異なりますが、学生は、できるだけ早い時期に申請を行うことをお勧めします。参加者の選考は競争が激しく、出発の1年以上前に申請手続きが開始されることもあります。関心のある場合は、地元のロータリアンに詳細をお問い合わせください。

交換留学先

青少年交換プログラムには、100以上の国や地域が参加しています。交換に選ばれた学生は、ロータリー・クラブが受け入れを承諾した地域に派遣されます。特定の地域で受け入れられる留学生の数は限られているため、申請者は留学先を指定するのではなく、留学地域の希望を伝えるのみとなります。

参加費用

費用は国によって異なります。交換学生とその家族は、往復の交通費、衣類、健康保険、旅行保険、小遣いを自己負担する必要があります。長期交換の場合、留学先のロータリー・クラブが必要な学費と小額の小遣い(毎月)を提供します。宿泊先と食事は、ロータリー・クラブが選んだホストファミリーから提供されます。

参加規定

参加者が安全に留学し、交換プログラムが継続されるよう、地区とクラブは学生が守るべき規則を設けています。この規則と学生に期待される事柄を交換学生にしっかりと理解してもらうために、地区はオリエンテーションを実施します。学生はこのオリエンテーションへの参加が義務づけられています。

クラブと地区の規則のほかに、国際ロータリーは以下を定めています。

- 交換先の法律や慣習に従うこと。
- 受入地区とクラブの規則に従うこと。
- 門限や家事手伝いなど、ホストファミリーの決まりを守ること。
- いかなる種類の車両も運転しないこと。

決められた規則に従わなかった場合、またはどうしても解決できない問題が生じた際は、学生にとっての最善の措置として、受入地区が学生の早期帰国を決定する場合があります。

交換に参加するかどうか迷っている場合

長期間、海外に滞在することを考えると、不安が募るのは自然なことです。ただし、学生は交換留学に出発する前に、このプログラムについて十分理解しておかなければなりません。交換留学について深刻な不安があったり、義務を果たせないと思う場合は、地元のロータリアンやプログラムの元参加者に相談してください。青少年交換は素晴らしい機会ですが、学生は交換に参加する前に万全の心構えを整えておく必要があります。

留学国で使われている言語の語学力

受入地区の多くは、交換前から留学国の言語に堪能であることを参加の条件としていませんが、基本的な会話力を身につけておくために、出発前に語学レッスンを受講することを極力お勧めします。ビザの取得にある程度の語学力が必要な場合もあり、受入地区によっては、現地到着後に語学クラスを受講することを義務づけている場合もあります。現地の言葉を理解できれば新しい環境にも慣れやすく、ホームシックにもかかりにくいものです。

交換の準備

参加が決定した後に準備すべきもの

プログラムの参加者として選ばれた学生は、以下を準備する必要があります。

- **パスポート**：手続きに数週間かかることもあります。プログラムの参加者
に選ばれたら、至急パスポートを申請してください。
- **学生ビザと保証書式**：必要な場合は、学生ビザを申請します。また、青少
年交換の正式な手続きの1つに保証書式への記入があります。ロータリア
ンがこの手続きを手伝ってくれます。
- **航空券**：いつ、どのようにして航空券の手配を行うべきか、またどのような
種類の航空券を購入すべきかについては、派遣地区に問い合わせしてくだ
さい。
- **健康保険**：学生は、出発前に、受入地区の定めた補償内容に見合う旅行
中の健康保険に加入しなければなりません。交換中は、保険証
書のコピーを常に手元に持っておく必要があります。
- **予防接種に関する書類**：ほとんどの学生は、予防接種に関する書類を用
意する必要があります。地元の保健所や大使館・領事館に問い合わせ、
留学先の国で義務づけられている、または推奨されている予防接種は何
か確認しましょう。また、交換先ではこのほかにどのような医療上の書類
が必要か、ロータリアンに問い合わせてください。
- **歯科検診・健康診断**：学生は、交換前に歯科検診と健康診断を受けなけ
ればならない場合があります。申請書には、医師が記入する診断書式が
含まれています。



母国について知っておくべきこと

交換学生は、文化親善使節として、母国の習慣、文化、歴史、地理、政府について質問されることがよくあります。出発前にこうした話題について学んでおきましょう。

滞在するホストファミリーの数

長期交換プログラムに参加する学生は、できるだけ多く異文化に触れることができるよう、少なくとも2つのホストファミリーの家に滞在します。新しいホストファミリーに会った際は、その家庭のルールや約束事について確認するようにします。

青少年交換学生は、しばしば、派遣地区から贈られた専用のブレザーを着て、交換留学生であることを示します。学生は、交換中に集めたピンやワッペンでこのジャケットを飾り、ロータリー・クラブを訪問したり、ロータリーの行事に出席する際は、このジャケットを着用します。

最初のホストファミリーへの連絡方法

学生は、交換へ出発する前に、最初のホストファミリーの連絡先を受け取ります。この機会に、ホストファミリーに挨拶の連絡をするとよいでしょう。前もって知っておきたい質問があれば、ホストファミリーが答えてくれる場合がありますし、新しい体験の前にコミュニケーションを取っておけば、互いの不安を和らげることができます。

おみやげ・贈り物

学生の多くは、ホストファミリーと受入ロータリー・クラブの会員に小さな贈り物を持っていきます。贈り物は学生の母国の文化を表すもので、高価である必要はありません。母国を表す襟ピンやバッジ、ワッペン、またはそのほかに工夫した品をいくつか持参し、ほかの交換学生に渡す学生も多いようです。

課外活動への参加

学生は、交換留学先の地域社会に溶け込めるよう、課外活動へ参加するとよいでしょう。新しい国や習慣に慣れるには、学校でたくさんの人と話したり、友達を作るのもよい方法です。また自分の信仰する宗教に関連する活動やスポーツなど、母国で行っていたのと同じ活動に参加することで、新しい文化に溶け込みやすくなります。

衣類と持ち物

1年間海外に滞在するための荷造りは大変なものです。ロータリアンと元青少年交換学生に相談し、持って行く衣類や物を決めるとよいでしょう。

衣類とそのほかの持ち物に加え、以下の書類と医療品を持参することが勧められています。

- 書類
- パスポートとそのコピー（複数）
- ビザと入国に必要な書類、ビザのコピー
- 健康保険証と保険証番号、必要な連絡先
- 航空券と航空便に関する情報
- 緊急連絡先
- 予防接種の記録（必要な場合）
- 薬、めがね、コンタクトレンズの処方箋（必要な場合）
- ロータリアンの連絡先、最初のホストファミリーの名前と住所
- 医療品
- 予備のめがねとコンタクトレンズ保存液（必要な場合）
- 少なくとも1か月分の洗面用具（交換先で容易に入手できない場合に備えて）
- 応急処置用品

持参金

学生は、道先での食事や忘れた洗面用具を買える程度の、小額のお金を交換先の通貨で持っていくべきです。それ以上のお金は、交換先に到着してから現地通貨に換えます。現地通貨への両替に最も良い方法は、受入地区に尋ねてください。

交換先の銀行

クレジットカードやデビットカードを持って旅行する学生もいますが、これらのカードを一般に利用できない国もあります。学生は、受入地区やホストファミリーに尋ね、その国で一番良い方法を聞いておくべきです。

クレジットカードやデビットカードを使用する場合は、あらかじめカードの使用と支払いについて保護者とよく話し合っておいてください。さらに、カードの損傷、紛失、盗難を報告し、新しいカードを入手するための手続きも確認しておきましょう。

自動現金支払機（ATM）を使って、自分の銀行口座から直接現金を取り出すことも可能です。銀行に連絡し、海外の滞在先で手持ちのデビットカードが使えるかを確認し、また、提携銀行以外の銀行でATMを利用した場合にかかる手数料がいくらかかるかも調べておきましょう。

国によっては、トラベラーズチェックを持参するとよい場合もあります。トラベラーズチェックの紛失、盗難の際の手続きも事前に確認しておきましょう。

電子機器の持参について

電気かみそり、ヘアドライヤー、MP3プレーヤー、ノートパソコンといった機器を持参することができます。プラグの形、コンセント、電圧などは国によって異なるため、交換前に、海外専用のコンセントや変圧器を購入することができます。また、こうした問題を回避するために、現地で安価な電気機器を購入できる場合があります。

交換先の国について知っておくべきこと

出発前に、交換先の国について以下のことを調べておきましょう。

- 現地の言葉で、「こんにちは」「さようなら」は何と言うか。
- 現地の男性と女性は一般的にどのような服装をしているか。どのような服装がふさわしく、またどのような服装が不適切か。
- 交換先の国の典型的な一日とはどのようなものか。いつ食事をするか。どのような食事をするか。
- 何がタブーとされているか。
- 祝日はいつか。その祝日をどのように祝っているか。
- 主な宗教はあるか。主な宗教がある場合、宗教的に重要な行事は何か。それ以外の宗教の信者はどのように見られているか。
- 余暇は何をして過ごすか。人気のあるスポーツは何か。その理由はなぜか。
- 政府の構造はどうか。現在の国家元首は誰か。

交換留学中

ホストファミリーとの接し方

プログラムの参加者は、適応力や柔軟性があるかどうかを基準として選ばれます。これらは、新しい家庭や文化で生活をしていく上で大切な資質です。はじめのうちは、新しい家庭の習慣が不自然に感じられるかもしれませんが、それも多くは学習や交換留学体験の一部であると心得ておくべきです。自分の国との違いについて人々と話し合うことはできますが、常に心を開いて新しい環境に浸かり、今までとはまったく違う新しい生活様式を体験する心構えでいなければなりません。ホストファミリーは通常、学生を特別な客としてではなく、家族の一員として迎え入れます。家庭の環境に慣れるよう努めるべきなのは学生であり、その逆ではありません。

学生は、ホストファミリーの家庭のルールについて話す準備をしておく必要があります。この話し合いをする際は、多くの地区で提供される「初日の質問事項」を活用するとよいでしょう。これには、「自分の服を自分で洗濯するべきか」「いつでも食べ物や飲み物をもらってよいか、または、まず誰かに聞くべきか」といった質問例が載っています。ホストファミリーによっては、ベッドメイキングや掃除などを家族全員で分担している場合もあれば、そうではない場合もあります。割り当てられた家事が何であれ、学生がこれを受け入れることで、家族と学生の双方が楽しく交換体験をすることができます。

ロータリーに関する責務

青少年交換学生は、ロータリー・クラブと地区の会合、大会、オリエンテーションといったロータリーの行事に出席するよう求められています。また、学生は、派遣国と受入国のロータリアンの前でスピーチを行うよう依頼される場合もあります。ほかの課外活動よりもロータリーに関する責務を優先させるようにしてください。



ロータリアンからの支援

ロータリアンは以下の形で学生を支援します。

- ホストファミリーを手配する。
- 海外での支援体制の1つとして、研修を受けたロータリアンが学生のカウンセラーとなる。
- 海外への旅行に必要なビザや書類の入手にあたり、学生を援助する。
- 交換前と交換のはじめに、学生とその保護者のためのオリエンテーションを開く。
- 交換の体験が安全で実り多いものとなるよう最善を尽くす。

学校への通学

長期交換プログラムに参加する学生は、高校に通学しなければなりません。地域の学校への学費は、受入クラブが負担します。クラスの登録を行って毎回授業に出席し、真面目な態度で学業に取り組むことが学生の責任です。クラスへの登録の際は、新しい文化を理解し、慣れるまでに変な労力を必要とすることを踏まえて、母国での授業数よりも少なめのクラスを取ることをお勧めします。登録にあたってはホストファミリーや受入地区のロータリアンが力になってくれるでしょう。

母国の家族や友人との連絡

母国の家族や友人に頻繁に電話をしたり、Eメールを送ったりすべきだと考える学生が多いですが、このような連絡はあまり頻繁に行うべきではありません。通信にかかる費用は高額な場合もあり、ホストファミリーに負担をかけるべきではありません。また母国の人と話したり連絡したりするために時間を費やすよりも、留学国の文化に完全に溶け込めるよう努めるべきです。交換の経験について母国の人々に知らせるには、インターネットで日記をつける学生が多いようです。

心配事がある場合には、どんなことでも保護者に相談してください。またホストファミリーや受入クラブが連れて行ってくれた旅行や交換中の素晴らしい体験についても、母国の家族に報告するとよいでしょう。

問題を相談すべき人

問題や困ったことが起きた場合は、直ちに助けを求めてください。ロータリアンのカウンセラーは、交換中にわからないことがあったら答えてくれますし、懸念や問題があれば対応してくれます。また、ロータリアンではない2人の支援者の連絡先が地区から渡されます。これらの支援者は、どのような不安や質問にも耳を傾け、助けてくれるはずです。ホストファミリーも大切な支援者となるでしょう。

受入クラブからもらう地元の連絡先リストは、安全や医療上の問題が起きたときに参照することができます。学校のカウンセラーは、学校で起きた学業上の問題や友人関係などの問題について学生を援助し、情報や人を紹介してくれることもあるでしょう。

こうした現地の支援体制を利用しても最終的に問題を解決できない場合は、派遣地区のロータリアンに連絡してください。

学生は、現地でのどのような問題にも対応できる幅広い支援体制が整っていることを覚えておくことが大切です。

カルチャーショック

交換学生は、海外に滞在中、カルチャーショックを経験することがよくあります。カルチャーショックは楽しい経験ではありませんが、外国に住む場合には自然なことです。カルチャーショックのような適応の問題があっても、結果的に大変素晴らしい価値ある体験ができたというケースはたくさんあります。

カルチャーショックには少なくとも以下の4つの段階があります。留学先で文化経験を重ねるにつれ、この4つの段階を繰り返して経験するものです。

1. **興奮と熱意**。これは、新しい場所に旅行し、新しいものをたくさん見たり、これまでとは違うことをしたり、新しい人と出会ったりすることに伴って高揚感に浸る状態です。
2. **いらだち**。最初の興奮からさめ、文化の違いを明らかに実感するにつれ、不快感を感じるようになります。いかに理解力と受容性があっても、否定的な感情がとめどなく襲ってくることがあります。
3. **適応**。留学先の文化で上手くやっていくためには、自分が適応する必要があることを悟り、地元の慣習や慣わしに適応しようと努めます。
4. **二文化併存**。この段階では、学生が異国の文化に十分適応したと感じ、世界や物事をこれまでとは全く異なる別の見方で見ることができるようになります。

ホームシック

ほとんどの学生が、特に交換のはじめにホームシックを経験します。学生は寂しくなったり、新しい文化に慣れるまでは毎日壁に直面し、圧倒されることもあります。突然ホームシックに襲われた場合の最良の治療法は、心から楽しめる活動に専念することです。留学先で、母国語を話す人と会ったり、自分と同じような経験を理解してくれる人と話をすることで、安心感を得られるでしょう。

交換中、気持ちが沈みがちな時期があるのは誰もが経験することで、カルチャーショックやホームシックは決して珍しいことではない、と理解しておくことが大切です。自分の状況をわかってくれそうな相手に、感じていることを打ち明けてみるとよいでしょう。ロータリアンのカウンセラーはこのような事についても研修を受けており、大いに助けになってくれるはずです。学生はまた、新しい文化に慣れ、現地の言葉を理解するにつれ、状況が改善されることも心得ておきます。

逆カルチャーショック

帰国後、母国の文化に再び適応するのは大変なことです。これは、海外にいる間に「母国では何も変わっていない」という過信が要因の1つです。以下は、学生の帰国後によく起こる感情や問題です。こうした感情について話したがる学生もいますが、どれも異常なことではなく、害をもたらすものではありません。

- 両親が自分を理解してくれない。前とまったく同じ自分であることを期待される。
- 自分の親よりホストファミリーの方が身近に感じられる。親が実情を知ったら、傷つくに違いない。
- 昔の生活スタイルに再び適応するのは難しい。
- たくさん友達ちをつくったのに、もう二度と会うことはない。
- ここは好きではない。(留学先に) 戻りたい。
- 留学中は大変な苦勞もしたのに、誰もが皆「素晴らしい体験だ」と言うばかりで、本当のことを何もわかってくれない。
- 昔の友人がおもしろくなくなった。共通点がなくなってしまった。

留学前の生活に戻るには時間がかかります。周囲の人々との関係を再び築くための努力として、自分の体験を友人や家族に話すともよいでしょう。また、留学経験のある人と話したり、交換中に会った人々と連絡を保つことも重要です。地区内の元交換留学生も助けとなってくれるはずです。

交換留学後

ロータリーに関する帰国後の責務

学生を派遣したロータリアンは、交換留学中の経験について学生から話を聞くことを楽しみにしています。派遣クラブや地域のクラブで発表を行い、自分の体験を話すとよいでしょう。

ロータリーとの関係を保つ方法

派遣クラブは、ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA) を実施したり、インターアクト・クラブやローターアクト・クラブを後援している場合があります (RYLAは年齢14～30歳、インターアクト・クラブは14～18歳、ローターアクト・クラブは18～30歳を対象としています)。こうした青少年プログラムに参加することによって、派遣クラブとの関係を保ち、ロータリーでの活動を続けていくことができます。特に、元青少年交換学生を対象とした帰国後のプログラムを設けている地区もあります。

母国で元の生活に戻るプロセスでは、海外に1年間滞在し帰国した後のショックを経験したことのあるほかの交換学生と話すことも助けとなるでしょう。ゆくゆくは、元青少年交換学生が、これから交換留学をする学生を援助するよう頼まれることもあります。

ご家族と保護者の方へ

学生の交換に備えて

海外への交換留学プログラムに参加する子供をサポートする上で重要なことは、親や家族が準備段階から関わることです。青少年交換資料にすべて目を通し、わからないことがあれば子供に質問し、ビザやパスポートの申請を手伝うなど、親として支援できる方法はたくさんあります。

保護者は、持っていく物のリストを注意深く確認し、必要な処方箋、ビザ、パスポートなどすべての書類のコピーを取っておきます。交換留学への出発前に、青少年交換プログラムが母国での学業にどのように影響するかを地元の学校関係者に尋ね、単位互換の可能性や必須科目についても確認しておきましょう。子供がまだ高校を卒業していない場合は、こうしたことが重要です。海外で受講した科目が帰国後に単位として認められるケースはごく稀であり、ロータリー地区はいかなる保証もできないことあらかじめご留意ください。

保護者は、海外で子供がどのような生活を送ることになるのかを理解するために、留学国について調べておくといでしょう。ただし、子供への連絡は必要最小限にとどめてください。交換学生がホームシックの段階をできるだけ早く乗り越えるには、現地の生活に親しみ、慣れることが重要だからです。過度の連絡を控えることで、子供が留学先の文化に溶け込みやすくなります。

必要であれば、派遣クラブの会員が質問に答えたり、支援を提供することができます。交換中、保護者は派遣クラブとの連絡を保つことをお勧めします。



長期交換中に学生を訪問することについて

学生の受入クラブからの承諾があれば、訪問することもできます。ただし、訪問は留学年度の後半に行うようにしてください。これより早い時期に訪問すると、学生に混乱をきたす可能性があります。学生は、本心をはっきりと口にしなくても、こうした親や保護者の訪問を交換への介入と見なす場合があることを心得ておく必要があります。

青少年交換プログラムにおける学生の安全確保

国際ロータリーは、支援体制を整えて青少年交換学生のための安全な環境をつくり、これを維持するよう最善の努力を尽くしています。この支援体制には、以下が含まれます。

- 各学生にはロータリアンのカウンセラーが付き、学生と定期的に連絡を取って、学生、クラブ、ホストファミリー、保護者、地域社会との連絡役となります。カウンセラーは、交換中に起こりうる問題に対応できるよう事前に研修を受けています。
- 地区は、虐待とハラスメント防止に関して、青少年交換プログラムの関係者に研修を行ない、受入国の法律に従って参加者の犯罪歴や身元照会の手続きを取ります。
- 学生には、問題が発生した際に、ロータリアン以外に連絡できる男性1名と女性1名が指定されます。

- 地区は、学生が地区の代表者に24時間いつでも連絡できるよう体制を整え、交換中に起こりうる問題や事態の報告に関するガイドラインを設けています。
- 性的虐待やハラスメントが発生した場合は、直ちに地区がすべての事態を適切な法執行機関（警察）に通報し、続いて事態解決のためにクラブと地区の指導者へ連絡するよう義務づけられています。いかなる場合も、学生の法的保護者には直ちに連絡が取られます。

青少年交換プログラムは、国際的な視野を広げ、理解を深めることで、学生の人生を変える有意義な体験となることでしょう。新しい世界を体験する第一歩を踏み出した学生とご家族の皆さまに、交換留学の成功を心よりお祈り申し上げます。

青少年と接する際の行動規範に関する声明

国際ロータリーは、ロータリーの活動に参加するすべての青少年のために安全な環境をつくり、これを維持するよう努める。ロータリアン、ロータリアンの配偶者、その他のボランティアは、最善を尽くして、接する児童や青少年の安全を守り、肉体的、性的、精神的虐待から彼らを保護しなければならない。



ROTARY INTERNATIONAL®

One Rotary Center

1560 Sherman Avenue

Evanston, IL 60201-3698 USA

www.rotary.org

752-JA—(709)